

第 33 回日本受精着床学会総会・学術講演会

2015. 11. 26-27、東京

妊孕性温存：凍結融解卵巣組織片移植後の癌細胞再移入のリスクについて

京野 廣一、中村祐介、佐々木敏恵、坂本 里、朽木美和、佐藤祐香里、服部 裕充、中條友紀子、青野展也、橋本朋子、土信田雅一、戸屋 真由美、奥田 剛、竹内 巧

目的: 2009 年 12 月 World Congress on Fertility Preservation において *Actively preserve fertility, but autotransplant cautiously* のタイトルで発表した。現在、凍結融解卵巣組織片の移植により 50 名以上の児が誕生している。最近、移植後に原疾患の再発により死亡 (Andersen et al.2014)、妊娠中断 (Ernst et al.2013)、化学療法再開 (Stern et al.2014) を強いられる報告が散見される。抄録・論文検索により知りえた事実を公開し、医療関係者は患者に *merit* と *risk* について十分な *informed consent* を行い、患者が納得した上で安全な治療を受けられることを切に願う。

方法: 妊孕性温存(FP)に関する文献検索

結果: 移植片による再発の可能性は低いが、再発した場合、移植片が原因でないと 100% 否定できない。理由は悪性腫瘍細胞を検索した組織片は移植には使われず、実際に移植するのは調べられていない別の切片だからであり、この事実を患者に伝えるべきである。FP 目的で摘出した 422 患者の卵巣組織片の 7% に悪性腫瘍細胞が発見されている (Rosendahl et al.,2013)。剖検例ではあるが 40 歳未満の日本女性 5,591 例 (病理組織検査) (Kyono et al.2010) では白血病ではもちろんホジキンリンパ腫、乳癌、子宮がんでも卵巣転移を認めている。ユーイング肉腫や白血病では組織検査で陰性、RT-PCR で陽性 (Abir et al.,2010,Rosendahl et al.,2010,Dolman et al.,2013) と検索方法で結果に違いが出ており、検索方法の検討も必要である。また摘出した卵巣組織片の何% で検索されているかなどの記載はほとんどなく、明記すべきである。

結論: FP を望む患者のために *imaging*, 組織検査、免疫組織化学検査、免疫不全マウスへの移植、実際の移植などあらゆるデータを解析し、卵巣凍結・保存は積極的に、移植はより慎重に行われるべき手技である。